

## グローバル化の中での地域活性化戦略

### 事例1 「韓国・大邱広域市が進めるベンチャー企業支援」

講師 李 鍾玄（財団法人大邱テクノパーク事業団長・慶北大学校電機工学部教授）

（李） 竹内教授がとても印象深く、役に立つお話をしてくださいましたので、私は軽い気分で大邱テクノパークについて、また、大邱市について、絵を見るような感じで簡単に説明したいと思います。まず、大邱市についてご紹介し、その次に大邱テクノパークについてご紹介いたします。

1988年にオリンピックが開かれたソウルについては、皆さんも国際都市として理解してください。しかし、大邱に関しては、韓国では3番目の都市で、大きいにもかかわらずアジアの中でもあまり知られてはいません。簡単に、大邱がどのような町であるかをご紹介し、そして、大邱を先端都市にするために仕事をするのがテクノパークの目的ですから、その次にテクノパークについてご紹介いたします。

（以下映像使用）

大邱は、ソウルからおよそ300キロの距離にある、ソウル、釜山に次ぐ3番目の大都市です。東京と北京の間に位置しております。また、ここは富山と向かい合っている都市ともいえます。大邱は、韓国において教育の都市として知られています。大邱と大邱近隣地域には、大学、カレッジその他を合わせて47の中小の大学が集まっており、教育の都市としても知られています。歴史的に見ると、3000年前に儒教、そして仏教を土台にして始まった都市です。また大邱周辺には慶州（キョンジュ）という町があり、そこには新羅（シルラ）、伽耶、今から3000年前の文化がそのまま保存されていて、仏教文化の流れを見ることができます。

そして、大邱では国際的なイベントがたくさん開かれています。去る5月にはアジア・パシフィックJCIカンファレンスが、大邱で開かれました。2002年のワールドカップも来年の秋になります。また、繊維の大邱繊維博覧会（Textile Expo in 2002）も来年秋に開かれます。2003年には、夏季ユニバーシアードが開かれます。

大邱は、総面積約885平方キロメートル、人口は250万で、土地が狭いわりに人口密度の高い都市です。大邱の産業構造を見ますと、機械分野がとても盛んです。そして、繊維も盛んです。1998年の統計では5800の中小企業があり、その中で自動車部品が6.6%、機械部品が37.7%、繊維加工が37.4%、電子が28.3%と出ています。この統計は、2001年度末にはまた変わるかと思えます。正確な統計はまだわかりません。

ここ5年間で、大邱を国際都市化するために、約700億ウォン、日本円で700億円のお金がインフラに投資されました。新しいインフラを構築し、公共部門に多くの金額が投資されました。左の写真が、ワールドカップが開催されるサッカー専用競技場です。7万4000人のキャパシティを持っております。右の写真は、これも5月にオープンした展示・コンベンションセンター、EXCOです。超現代的なモダンな国際会議場であり、国際イベントも可能です。

このほかにも、空港が国際空港になりますし、大邱 - ソウル間にはとても多くの交通網があります。飛行機は30分間隔で飛んでおり、日本にも大阪に直行便が1週間に2便飛んでいます。また、中国の青島、上海にも航空サービスが行われています。それから、日本の福岡、香港、台湾にも航路を開くために、現在交渉中です。

それ以外にも、大邱は、日本では京都を連想するような古都です。古都の上に超現代的なインフラを敷き詰めていると考えていただければいいかと思います。京都あるいは奈良のような都市としては、近くに慶州（キョンジュ）も仏教文化を基礎としている歴史的な都市があり、文化的な土台に基づいて多くの文化的イベントが行われています。美術、音楽、伝統文化に関する多くのイベントが毎月のように行われ、多くの観光客も楽しんでおられます。簡単に、大邱について紹介いたしました。

この大邱が持っている産業構造を見てみましょう。産業構造はとても遅れています。在来産業といえる繊維、機械製造部分が主力でしたが、これをどのように最先端事業団地に転換して、付加価値を得ることができるか、知識産業として高めることができるか。これが大邱テクノパークが現在持っている義務であるといえます。大邱テクノパークは、1998年12月に韓国政府から指定を受けました。4～5年の準備期間があり、1998年12月に創設され、現在まで満3年の間、本格的に稼動しております。

テクノパークの目標は、工業団地をつくり、工業団地で新しい技術を開発し、製品をつくるというよりは、大邱という大都市（メトロポリタン）を全体的に先端都市として高めるためのネットワーク型テクノパークと考えていただければよろしいかと思います。都市が持っている既存のインフラを最大限に先端化し、その中をさらに先端化したネットワークで結んで、シナジー効果を生み出すということです。研究、教育を最もうまくやる大学の中に入れ、生産に関してはその最も中心となっている工業団地の中で行うべきであるし、商業活動は商業活動を中心でやるべきです。そうやってこそプロ化することができます。景色のいいところに土地を確保し、大学をそこにつくってみて、アマチュアリズムに終わってしまうという例を私はたくさん見えています。私たちは世界で初めての試みだと思いません。そのようなネットワーク型のものをつくってみようと思っていますが、現在は、難しい中でも一定の成果を得ています。

韓国では現在、8か所がテクノパークに指定されています。ほかのテクノパークについては、時間の関係上ここではご紹介できませんが、嶺南（ヨムナム）地方にテクノパーク4か所が指定されております。大邱はもちろん、浦項（ポハン）、慶北（キョンブク）、釜山、この4か所のテクノパークが指定されています。嶺南（ヨムナム）地方に密集しているといえます。

密集した理由を申し上げますと、かつて韓国の産業化の過程でこの地方が発展していったわけですが、その当時、生産基地としての役割を果たしてきた地域がまさにこの嶺南地方です。かつて、朴正熙（パクチョンヒ）大統領がこの地方でお生まれになり、そのあとも全斗煥（チョンドハン）、盧泰愚（ノテウ）大統領、皆さんこの地方でお生まれになりました。ですから、政治的な意味合いもあって、この地方が非常に発展しました。言い換えれば、この地方は保守的な地域だとも申し上げることができるかもしれません。

かつて韓国が産業発展をするにあたって、生産拠点としての役割を果たしたこの地域ですが、浦項には鉄鋼、あるいは、蔚山（ウルサン）には自動車、造船、重化学工業、また釜山は貿易、繊維、軽工業といったものが発展し、昌原（チャンウォン）では重工業が発展しました。こういったかたちで、実質的な生産基地としての役割を果たしてきました。

しかし、それが実質的な都市としての中核機能は持ちえなかったということです。そういった施設が、今、どんどん老朽化していると申し上げることができると思います。どのようにすればそこに再び活力を与えることができるだろうか。再生することができるだろうか。そのために、この大邱が中心となっています。大邱テクノパークの役割というのは、まさに、こういった技術、人材といったものを国のデジタルバレーに送り込み、また、その他の技術はそれぞれの都市へと送り込むことであり、この地域をあらためて活性化するマルチバレー・プランというものを、現在、大邱は進めているわけです。

実際に、大邱は、この嶺南地域の周辺都市とは1時間以内の距離に位置しています。ですから、中心としての役割を十分果たすことができます。そのために、私どもテクノパークでは、これまで進めてきた事業をまとめて、ベンチャーの創業を集中的に誘導します。現在 250 ほどのベンチャー企業を育成してまいりましたし、また、技術革新については、私どもが技術を直接開発したり、外からヘッドハンティングをしてくるとか、あるいは技術をそのように導入してでもこの地域に植えつきたい。次に、地域の協力体制をつくって、私どもの事業が市民からの理解を得られるようにする事業といったものが私どもテクノパークの戦略であります。

具体的には、教育・制度・経営・装備・市場・技術・情報・資金・人材といったものも含めて、総括的にプロジェクトを進めております。こうした事業をまとめて私どもは（pie）プランとよんでおります。この プランという言葉ですが、大邱市には川が3本流れております。この川の流れるかたちが の文字の形に似ているということで、 プランということでもあります。まずは、この地域のベンチャーを創出するための地域というものがあります。この地域では、ベンチャーが最先端のハイテク生産を行う地域になります。また、この地域は、大学、ベンチャー企業、国際的なネットワーク機能を持った地域です。ここはまさに大邱の脊髄、中心にあたるということでもあります。あらゆるインフラがここに集中しています。

また、伝統産業の工業団地もこの地域に集まっておりました。そうした中に最先端のベンチャーが入り込んで1つの種をまいて、そこに新たに活力を植えつけないといった地域でもあります。また、大学が集中している地域もあります。学術的な能力の高い教授が集まっていたり、学生が集まっていたりします。

こうしたハードウェアも、この地域に現在建設が進んでおりますし、去年は、3000 万ドルという巨額の投資が3つの大学に対してなされたということもあります。

次に、大邱ベンチャーセンターです。今、ご覧になっている写真がそうです。地上13階建て、地下4階のビルで、テクノパークの本部もここに入居しています。20以上の企業もここに入居していて、インキュベーションではなくて、ポスト・インキュベーションの段階にある成長企業20社がここに入居して、現在活動をしています。

次は、ベンチャーバレーです。30万坪の敷地です。1坪は3.3平方メートルで畳2枚分

ぐらいの広さになると思います。この地域全体が、ベンチャー企業育成地域として政府からの指定を受けており、毎年かなりの資金がここに投入されています。ベンチャーを育成するために、その資金が使われているわけです。さまざまなベンチャーのためのインフラがここには集中しており、飛行場、高速道路へのアクセスも非常に便利になっています。また、ベンチャー企業が活動しやすいような環境をつくるという部分についても力を入れています。この中に、先程ご紹介した大邱ベンチャーセンターも立地をしているわけです。

生産部門、既存の工業団地以外に、ベンチャー企業が入居します。ベンチャー企業も生産空間を必要とするわけですから、そういった空間を提供するために、工場をつくっています。それが、今のこの写真です。この12月に着工して、来年竣工するという計画です。1年以内には、この施設がすべて完成することになっております。

城西（ソソ）という地域に、最先端の技術団地を造成しています。先端企業12社が立地する計画です。そういった工業団地、工場をつくって、この12月までにその12社がすべて入居し、工場を稼働する予定になっております。シリコンバレーと遜色ないような最新鋭の施設が、ここにつくられているわけです。

次は、ネットワークセンターです。これは、慶北（キョンブク）大学という一流の国立大学です。韓国では、ソウル大学の次がこの慶北大学だといわれています。いってみれば、東大、京大といった位置づけになりますでしょうか。その大学の中に、ネットワークを担当する本部がつけられています。現在、創業を支援し、産学官が一つになって共同で研究、学習をするといった機能を果たしております。そうした部分をリードし、支援する役割を果たすのが、このネットワークセンターだといえます。現在建設中で、来年5月にこの施設が完成し、入居が始まる予定です。その後も増築を重ねる予定です。

これまで、いろいろと説明をしまいましたが、250ほどのベンチャー企業を私どもが育成しております。2005年までには、1000社のベンチャーを育成したい、作り出したい。また、先程お話もありましたが、富山が抱えている問題と同様に、大邱も多くの人材がソウルへと流れていくという問題を抱えております。それを何とか食い止めるために、そういった人材、学生に対して職場を与えてやるということで、非常に高い技術、博士号を持った人など900人を何とかこの地域に残って働いてもらえるように特別に指定をしています。

私どもは、この地域の技術革新のための協議体というものをつくっております。46の施設を集めて、大邱テクノパークが中心となって地域の技術革新のセンターとしての役割を果たしています。政府、あるいは地方自治体にも支援をしていただいておりますし、私設の研究所、あるいは公の施設といったものが集まって1つのネットワークをつくり、協議体（カウンスル）をつくっているわけです。46の機関が集まって協議体をつくっております。

現在、大邱テクノパーク、慶北（キョンブク）テクノパーク、浦項テクノパーク、釜山テクノパーク、この4つのテクノパークはすでに完成しております。また、来年度には、

政府から申請が下りれば、安東(アントン)、昌原、蔚山といった残りのテクノパークが完成すれば、S字模様のベルト状のテクノパークベルトとでもいうようなものが成立するわけです。究極的な目標としては、洛東江(ナクトンガン)という川に沿って、この地方、あるいは東海岸の海に面した地域が結びついて、こういったS字型のテクノパークベルトを完成させることです。

時間の関係で、十分にお話しすることができませんでした。また、資料も英文のもので、皆様のご理解をどこまで得られたかわかりませんが、私どものホームページもございませんのでそれをご覧になっていただき、必要な資料があればご請求いただければ、英語のものになりますが、資料はいくらでもご提供できますので、ご遠慮なくお申しつけください。

以上です。ありがとうございました。